

北河内地区職協開催

北河内地区農業委員会職員協議会が2月13日、大東市役所で開かれ、14人が出席した。協議会では、女性委員の登用、下面積要件撤廃後の3条申請、盛土規制法の対応、委員の活動、地域計画の進め方、市独自の農地バンク・農地中間管理事業、農地台帳、生産緑地の耕作状況などの各市から提案のあった議

題について意見交換がなされた。その後、農業会議増山主幹から、1月に農業会議と職員協議会で作成した農地法等業務推進検討会における協議・検討報告書(中間報告)から報告。地区計画と転用許可の取り扱い、土地の造成のみを目的とした農地転用、営農型太陽光発電設備の転用案件、違反転用の追認・不許可案件などについて、留意事項を報告した。

(増山)

水田協

米政策改革推進部会

大阪府水田農業推進協議会の米政策改革推進部会が1月23日、J A大阪センタービルで開かれた。部会では、令和5年度水田活用直接支払金(産地交付金)の活用実績や、令和6年産における水田活用予算の見直しなどについて報告があった。

(北川)

お知らせ

第157回臨時総会

◇日時 3月21日(木) 午後1時30分

◇場所 シティプラザ大阪

◇議案 5年度収支予算補正、6年度収支予算・事業計画等

※臨時総会終了後、市町村農業委員会会長・農業会議会員等 合同会議を予定

随 想

「日本の食は大丈夫か」といった話題を見聞きする度に思い出すことがあります。今から約30年前、私は営業二課という部署で農業融資を担当していました。件数として圧倒的に多かったのが農林漁業金融公庫の代理業務です。

農林公庫から受託する仕事の中でも、最も時間と労力をつぎ込んでいたのが、「農業経営基盤強化資金」略称スーパーL資金の利用促進です。これは、1993年の農業経営基盤強化促進法制定の翌年に創設された制度資金で、農林公庫が、市



食べるものを作るという仕事

大阪府信用農業協同組合連合会

専務理事 照井 英俊

町村が認めた認定農業者を対象に農地取得や施設整備等に必要な長期資金を低利で融通するものです。私が担当し始めた当時、大阪府では同資金の融資実績がゼロ、

行していたと記憶しています。いずれも有名な篤農家で、そのお一人は水稲農家でした。若輩担当者が苦勞したのは、公庫が求める多種多様な書類をなかなか用意していただけないことです。

当時の農公近畿支店さんとしても大人の事情上、何とかまず是一件の実績を、と頑張っておられたのだらうと思います。スーパーL資金の大阪府第一号として、2つの案件が同時進

「ごちゃごちゃ言うなら借りへんぞ!」となるものですから、そんな時は農協支店の課長さんに泣きつきます。「どないしたん?」「Aさんが書類揃えてくれなくて困ってます」「Aくん

協議事項は6年度産地交付金のメニュー設定について、担い手加算のうち集落営農について、担い手不足に対する課題解決へのインセンティブとなるよう、他対象者と比較して高い単価を設定する。報告事項では、肥料価格高騰対策事業(国庫)の実施状況からは、収入保険制度等の推進について説明があった。

はまたそんなこと言うてるんか?私から言うといたるから、またおいで」次に支店にお邪魔すると、そこには見事に書類が届いています。実は、この女性課長さんとAさんは小学校時代の同級生。ああ、子供時代の力関係よ、永遠なれ。

融資実行も近づいたある日、Aさん宅で仕事の話が終わるとコップ酒が振舞われました。

「俺はな、もつともつと広いところで思いつきり米を作りたいんや」と熱く語るAさんが次に言った言葉を、特に最近よく思い出します。「俺たちは世の中がどんなことになっても絶対に飢え死にだけはせえへん。何でかわかるか?俺たちは食べるものの作り方を知ってるからや。」

自分でも食いもん作れんね。だから死なへん。」この自信とプライド、カッコいい!と思いました。Aさんの言葉はとてもシンプルで説得力があります。てことは、食べるものを作れない自分は死んじゃうのか?それは嫌だな。でも幸い農業関連団体に身を置かせてもらってるから、せめて、作れる人たちには、いつまでもみんなの分まで作り続けてもらえるよう、自分はこの役割を全うしよう。30年経った今、そう思っています。

◇筆者の紹介(てるい ひでとし)

昭和41年生まれ。平成元年、大阪府信用農業協同組合連合会入会。総合企画部長、資金証券部長を経て、平成29年に常務理事。令和5年6月より現職。